

2022年3月期第3四半期 決算説明



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

I . 2022年3月期第3四半期 実績

II . 2022年3月期 通期見通し

1. 連結業績
2. セグメント別業績
3. 百貨店事業
4. 食品事業
5. 特別利益・特別損失

I - 1. 連結業績

- ▶ 新型コロナウイルス感染者数が低水準となった3Qにおいて百貨店事業が売上伸長し、連結合計で増収
2019年度以来となる3Q累計での営業黒字化
- ▶ 固定資産・有価証券売却益の計上により、当期利益は大幅伸長

(単位：億円)	金額	金額			前年比 /前年差
		1Q	2Q	3Q	
総額売上高	5,671	1,612	1,829	2,231	102.8% +156
売上高	3,713	1,143	1,227	1,343	-
営業利益	7	▲20 コロナ特損振替前 ▲58	▲31	59	+17
経常利益	20	▲9	▲32	62	+21
特別利益	226	155	43	27	
特別損失	88	42	6	40	
親会社株主に 帰属する四半期純利益	129	63	18	49	+210

I - 2. セグメント別業績

- ▶ 百貨店事業は3Qにおける売上回復により営業黒字化し、連結合計の黒字化に寄与
- ▶ 食品事業は巣ごもり需要継続し、コロナ前を上回る利益水準
- ▶ 商業施設事業はH2O商業開発のSC化進展と大井開発における稼働率改善・合理化効果により増益

(単位：億円)	総額売上高		営業利益	
	金額	対前年	金額	対前年
百貨店	2,825	111.8%	11	+20
食品	2,259	101.1%	39	▲5
商業施設	347	67.6%	4	+5
その他	241	99.9%	▲26	▲20
連結調整			▲20	+18
合計	5,671	102.8%	7	+17

※ 今期よりセグメント変更（前年実績は組み換え済み）

I - 3. 百貨店事業

- ▶ 3Qにおける売上高の回復により増益、営業黒字転換
- ▶ コロナ感染拡大によって休業・営業制約のあった1・2Qに対して、感染者数が減少した3Qでは概ね通常営業で、ファッション実需やギフトニーズが高まり業績回復
- ▶ 家賃減免額の縮小、営業再開に伴う宣伝費・販売手数料増加等による販管費増加

※ コロナ特損への振り替え額は37億円（対前年▲6億円）

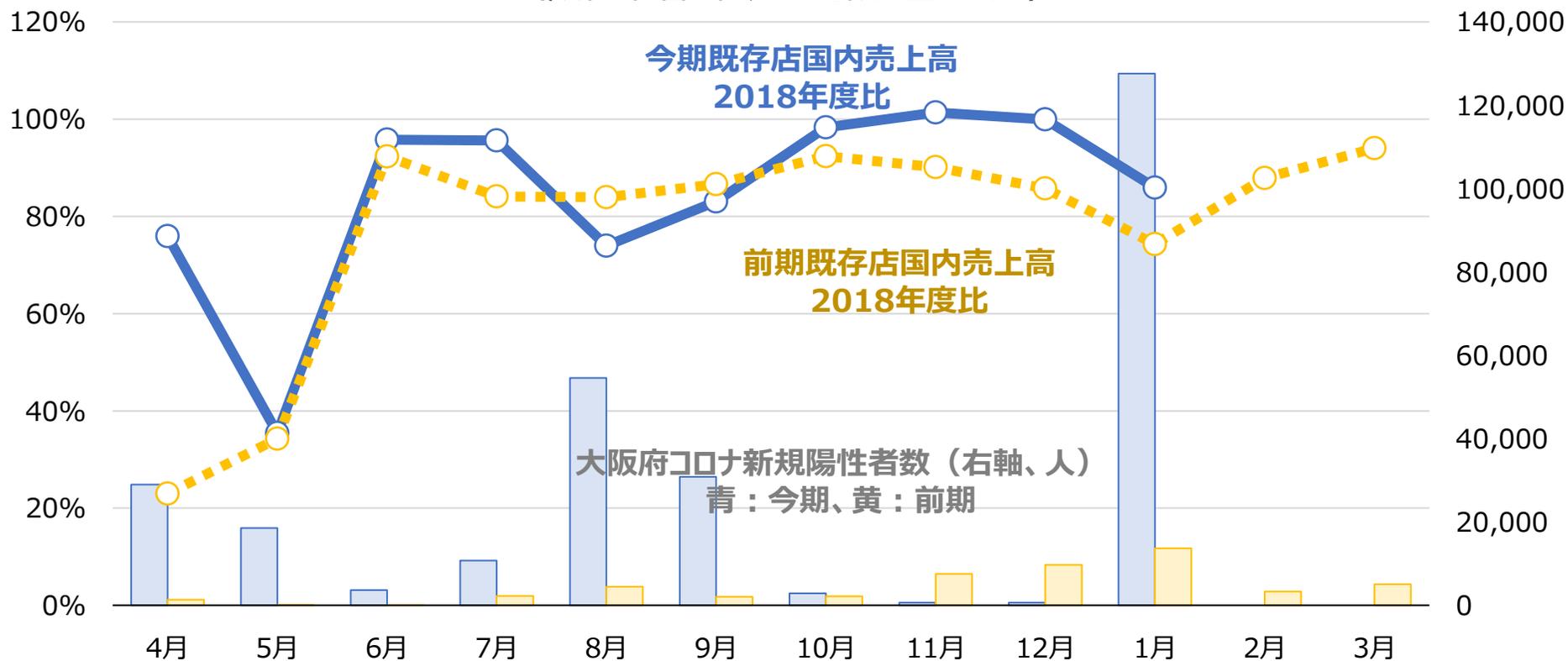
阪急阪神百貨店

(単位：億円)	金額	金額			前年差	前年比
		1Q	2Q	3Q		
総額売上高	2,806	662	870	1,274	+297	111.8%
売上総利益	639	150	196	293	+62	110.8%
総利益率	22.76%	22.61%	22.52%	23.00%	▲0.22%	-
その他収入	23	7	8	9	+2	108.9%
販管費	652	175	227	251	+45	107.5%
営業利益	10	▲18	▲23	51	+19	-
		コロナ特損振替前 ▲53				

I - 3. 百貨店事業

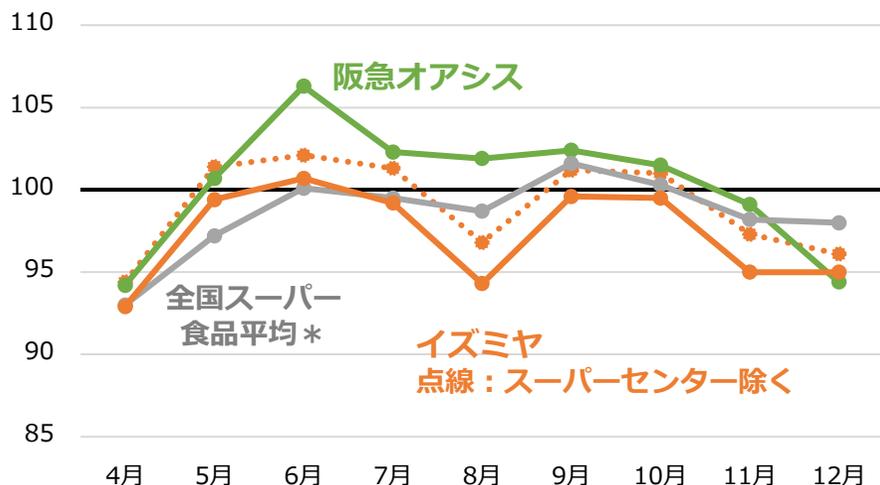
- ▶ コロナ感染第4波（4月～5月）、第5波（7月～9月）による休業、営業制約
10月以降は感染者が減少し、国内売上はコロナ前・増税前の2018年度と同水準で推移
- ▶ 22年1月はオミクロン株の急速な拡大を受けて、売上高は弱含み

既存店国内売上2018年比
(阪神本店、神戸、高槻、三田除く)



- ▶ 食品スーパー：増収減益
 - － 感染者数が減少した3Qは内食需要の落ち着き
 - － 阪急オアシスは減収となるも、既存店の好調な売り上げ、益率改善により増益
 - － イズミヤはSMが堅調に推移、益率も改善
- SC転換中のスーパーセンター苦戦、チラシ再開に伴う宣伝費増加などにより減益
- ▶ 阪急デリカアイなど食品製造は、食品スーパーでの総菜需要の高まりを受け、利益回復

既存店月次売上高の推移



*全国スーパーマーケット協会 食品・既存店

(単位：億円)	売上高		営業利益	
		前年比		前年差
食品スーパー	2,165	100.7%	39	▲9
食品製造	260	98.3%	▲2	+4

I - 5. 特別利益・特別損失

- ▶ 中計における資産効率向上取り組みとして、不動産・株式の売却が進行
- ▶ 休業期間中の家賃・人件費など新型コロナウイルス感染症による損失40億円
休業期間中の雇用調整助成金、休業協力金など助成金収入28億円
- ▶ 関西スーパーマーケットとの経営統合に伴い
負ののれん発生益1億円（3Q時点の暫定のれん）、過年度取得株式の評価損18億円

	項目	金額	内訳
特別利益	固定資産売却益	131億円	中津 47億円 大淀 39億円
	有価証券売却益	65億円	政策保有株式売却
	助成金収入	28億円 (対前年▲2)	雇用調整助成金 16億円 休業協力金 12億円
	負ののれん発生益	1億円	関西スーパーマーケットとの経営統合
特別損失	新型コロナウイルス感染症による損失	40億円 (対前年▲11)	阪急阪神百貨店 37億円
	段階取得に係る差損	18億円	過年度取得の関西スーパーマーケット株式評価損

Ⅱ．2022年3月期通期見通し

- ▶ 関西スーパーマーケットとの経営統合により総額売上高は大幅増加
- ▶ 2022年1月からの新型コロナウイルス感染症の急激な再拡大を受けて既存事業の売り上げ見通しを厳しく見込み、営業利益は当初予想並み
- ▶ 関西スーパーマーケットとの経営統合に伴う負ののれん（確定のれん見込み）、百貨店の利益回復に伴う税効果計上額の増加により、当期純利益は上方修正

(単位：億円)	金額	金額		前年比 /前年差	当初予想比/ 予想差
		1～3Q	4Q		
総額売上高	7,850	5,671	2,179	106.2% +458	102.6% +200
売上高	5,150	3,713	1,437	—	103.0% +150
営業利益	▲10	7	▲17	+34	±0
経常利益	5	20	▲15	+34	+25
親会社株主に 帰属する当期純利益	110	129	▲19	+358	+60

Ⅱ. 2022年3月期通期見通し

- ▶ オミクロン株拡大の不透明感は強いものの、百貨店事業は通期で黒字化を見込む
 予想の前提：2月以降、既存店の国内売上2018年度比9割強で推移
- ▶ 食品事業は4Qから新たに関西スーパーマーケット*が連結対象

* 関西フードマーケット、新・関西スーパーマーケット、KSPの3社

(単位：億円)	総額売上高		営業利益	
	金額	対前年	金額	対前年
百貨店	3,840	110.4%	2	+21
食品	3,252 関西スーパー影響 +313	111.1%	50 関西スーパー影響 +10	+9
商業施設	435	66.9%	0	+8
その他	323	96.0%	▲36	▲21
連結調整			▲26	+17
合計	7,850	106.2%	▲10	+34

※ 今期よりセグメント変更（前年実績は組み換え済み）

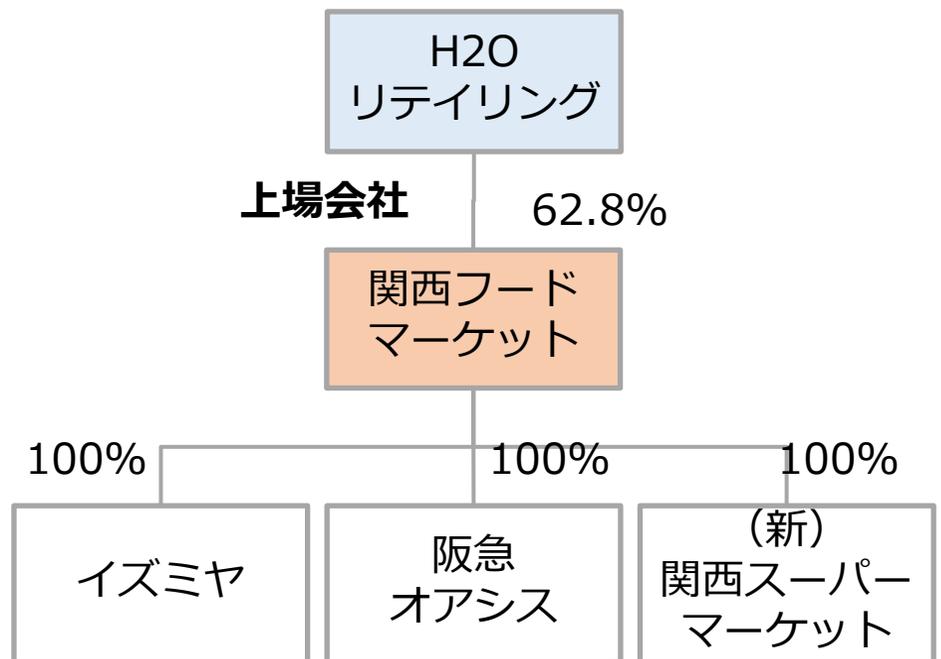
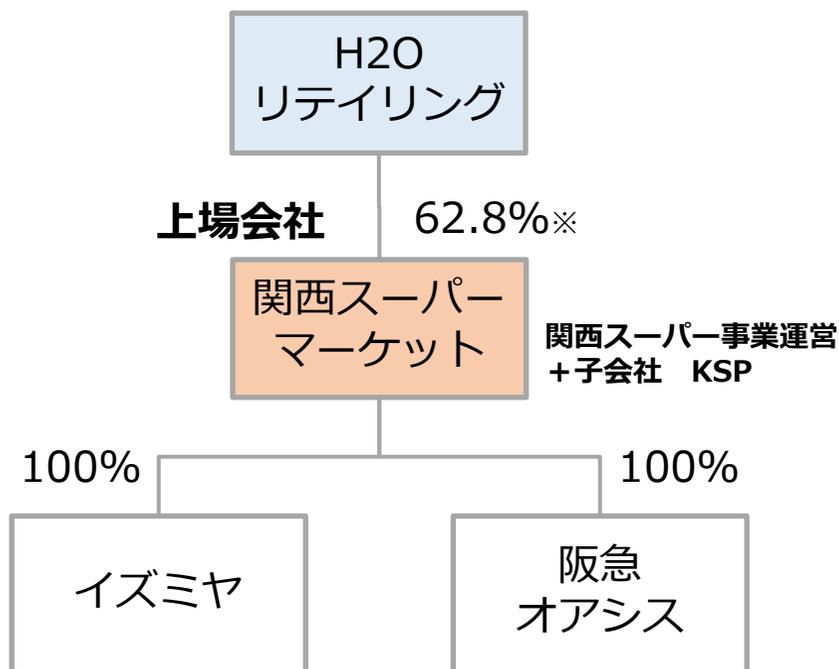
(参考) 関西スーパーマーケットとの経営統合スキーム

2021年12月15日

関西スーパーマーケット株式と
イズミヤ・阪急オアシスの株式交換

2022年2月1日

吸収分割によりイズミヤ、阪急オアシス、
新・関西スーパーマーケットを
完全子会社とする中間持株会社体制に



関西スーパー事業運営
+ 子会社KSP

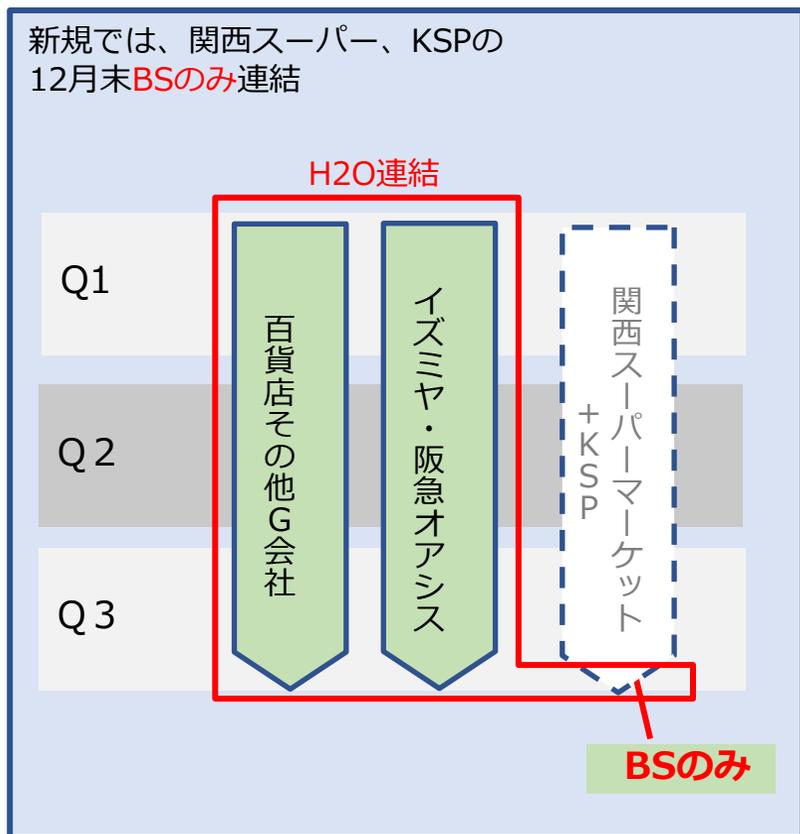
※株式交換に伴う反対株主からの買取請求を受けた関西フードマーケットの自己株式の増加により、3Q時点でのH2Oの議決権比率は62.8%

(参考) H2Oリテイリングの連結業績対象範囲

第3四半期の連結業績に関西スーパーマーケット、KSPなどの業績は含まれず、期末時点のBSのみ連結対象。
第4四半期の連結業績には、1～3月の関西フードマーケット、関西スーパーマーケット、KSPの3社業績が新たに反映。親会社株主に帰属する当期純利益へは、1～3月の関西フードマーケット及びその子会社の当期純利益の議決権比率分（3Q時点では62.8%）の反映。

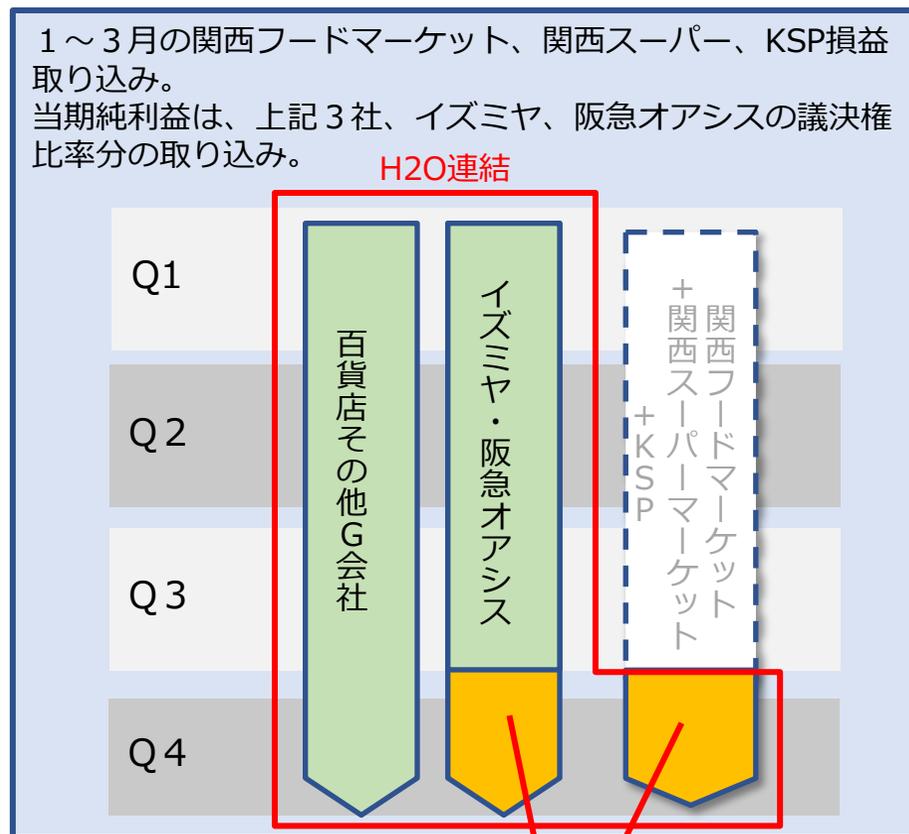
3Q

新規では、関西スーパー、KSPの12月末BSのみ連結



4Q

1～3月の関西フードマーケット、関西スーパー、KSP損益取り込み。
当期純利益は、上記3社、イズミヤ、阪急オアシスの議決権比率分の取り込み。

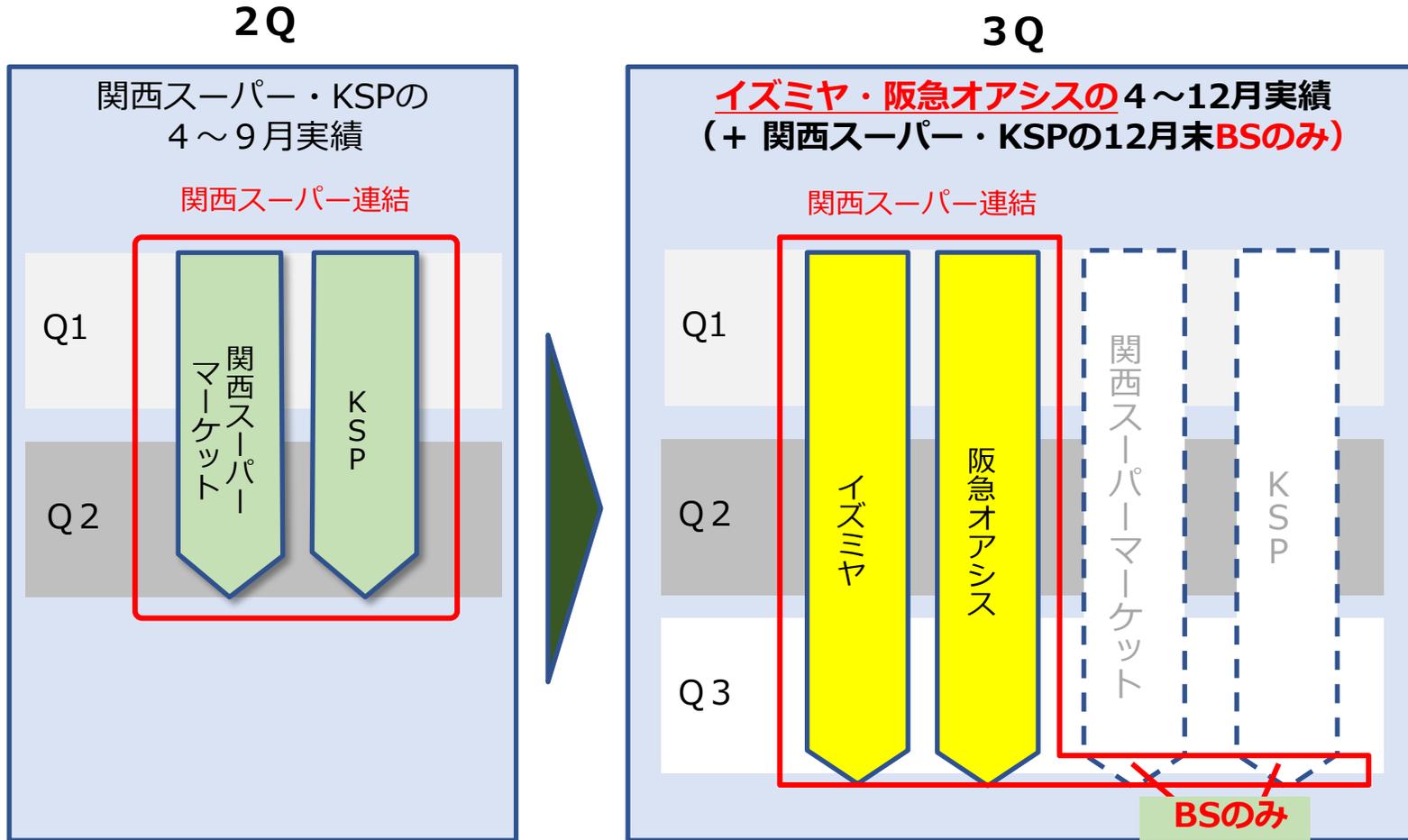


当期純利益は、議決権比率（3Q時点：62.8%）分のみ取り込み

※各決算期末日時点の商号で記載。

(参考) 関西フードマーケットの連結業績対象範囲

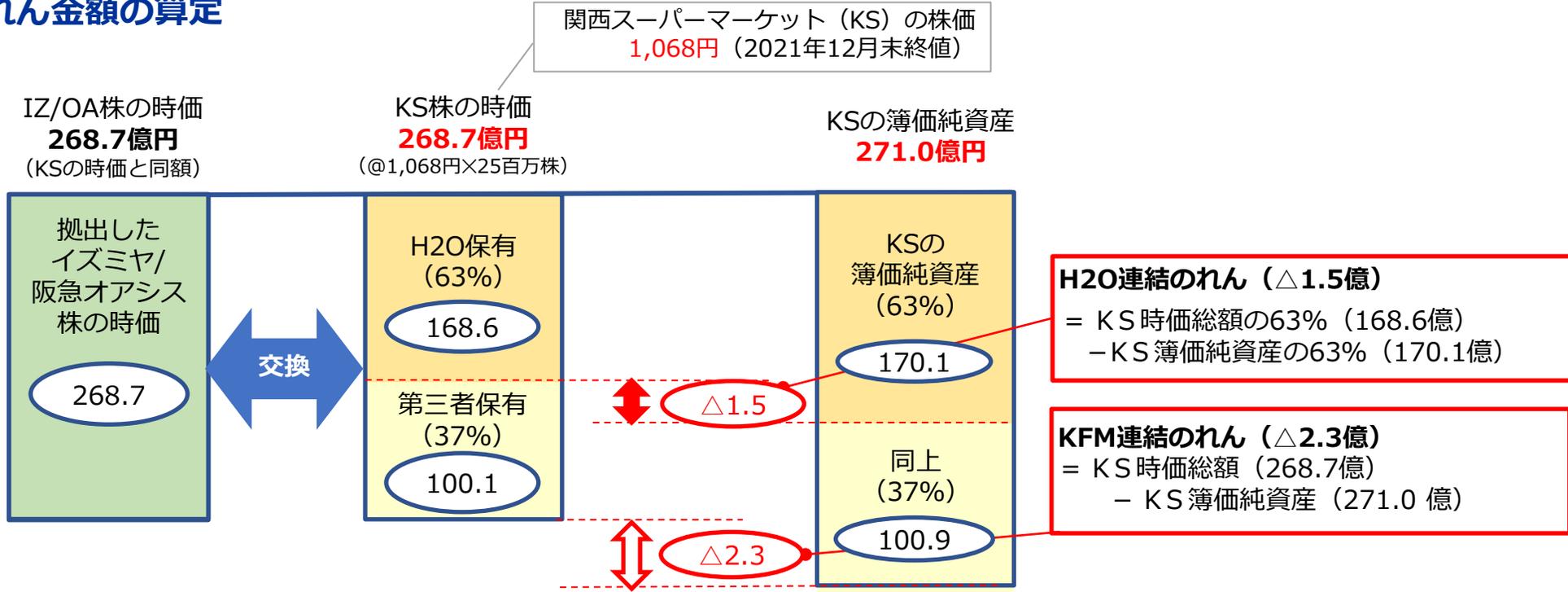
第2四半期までは、関西スーパーマーケットとKSPの2社からなる連結業績を開示。
 第3四半期の連結業績は、株式交換が企業結合会計上、逆取得となることから、イズミヤと阪急オアシスの2社の4～12月の業績が反映。関西スーパーマーケットおよびKSPの業績は含まれておらず、期末時点のBSのみ反映。



※各決算期末日時点の商号で記載。

(参考) 関西スーパーマーケット経営統合ののれんの算定

のれん金額の算定



暫定のれんと確定のれん



(参考) 関西フードマーケット連結業績・通期見通し

- ▶ 3Q累計はイズミヤと阪急オアシスの2社の連結数値（前年との連続性はない）
- ▶ 4Qのみ関西スーパー事業および関西フードマーケット（KFM）実績が連結対象

(単位：億円)		1-3Q 実績		4Q 見通し		通期見通し (KFM連結)		通期 (単純合算)	
		金額	対前年	金額	対前年	金額	対前年	金額	21/10/15 開示計画
イズミヤ	売上高	1,055	104.1%	332	105.1%	1,388	104.3%	1,489 ^{※2}	1,505
	営業利益	23	▲7	1	+0	24	▲6	24	28
阪急オアシス	売上高	840	99.4%	258	98.2%	1,098	99.1%	1,098	1,108
	営業利益	17	+0	2	+3	19	+4	19	17
関西スーパー 事業※1	売上高	978	100.0%	313	100.4%	313	100.4%	1,291	1,292
	営業利益	12	▲14	14	+14	14	+14	26	28
KFM (2~3月)	営業利益	連結対象外		▲4	-	▲4	-	▲4	-
合計	売上高	1,928 ^{※2}		963 ^{※2}		2,891 ^{※2}		3,878	3,905
	営業利益	40		13		53		65	73
	経常利益	34		10		44			
	当期利益	29		49		78			

営業利益計画差▲8億円

- ・統合関連費用 ▲5億円
- ・統合に伴う外形標準事業税増加 ▲1億円
- ・イズミヤスーパーセンター苦戦他 ▲2億円

注. 個別業績は収益認識基準適用前

※1. 関西スーパー事業：旧・関西スーパーマーケット連結（KSP含む）

※2. その他収入含む売上高

(参考) 関西フードマーケット各社個別業績 (1~3Q)

食品スーパー各社 3Q累計実績

(単位：億円)	イズミヤ		阪急オアシス		KFM連結対象外 (関西スーパー事業)		関西フード マーケット	単純合算
	金額	対前年	金額	対前年	金額	対前年	金額	
総額売上高	1,055	104.1%	840	99.4%	978	100.0%	-	2,874
売上総利益	277	+11	232	+5	228	▲11	-	736
総利益率	26.21%	+0.03%	27.59%	+0.81%	23.30%	▲1.08%	-	25.62%
その他収入	79	▲10	54	+0	15	+0	-	148
販管費	332	+8	269	+5	231	+4	-	832
営業利益	23	▲7	17	+0	12	▲14	-	53
利益増減要因	スーパーセンター苦戦 販管費増加 (広告宣伝費・販売手数料)		粗利率の改善 (価格政策見直し、 高益率の総菜伸長) 販管費増加		粗利率低下 (会計処理見直し▲3.8億 →通期影響なし) (前年の反動あり、2年前 比では改善)		22/2/1に 持株会社 3Q実績なし	

注. 収益認識基準適用前



本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。

また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複製・転載等することを禁じます。